

歴史や偉人



「つあり」の名前は どこから？

正確には、いつから「つあり」と呼ばれたかは分かりません。一説には、元々「ツウ」と呼ばれていたものを、後にツアリと読み替えたと言われています。

「津有」が地名として 使われていった

古い文献によれば、この地域は「津有郷」であったそうです。1597年（慶長2）に作成された越後国頸城郡絵図には、津有郷の全域が描かれています。左の古絵図は越後国頸城郡絵図を書き写したものです。

津有郷の村々の記録

津有郷内にある村々に関する記述で、1597年（慶長2）以降の古文書・古絵図から、地図上に記してみました。

こちらから▶



出典：慶長二年越後国絵図
(新潟市立新津図書館所蔵)

津有郷から津有村、そして高田市へ

津有村は、1889年（明治22）に多くの村々が合併してできました。合併の理由は「本村八地勢平坦交通至便民情風俗相同シク」（この村は土地が平らで、交通の便もよく、人々の暮らし方や習慣は同じである）とされています。村名の由来は、この地が津有郷に属していたからです。

その後、津有村は人口6,700人の大きな村になりましたが、1954年（昭和29）に高田市から合併の申し入れがあり、翌年から高田市となりました。

それまでの間に様々な事件が起こり、また優秀な人材が大勢輩出されています。

スクープ！ 本当にあった津有の大ニュース



農民の反乱！【越後頸城質地騒動】

1722年、幕府の「流地禁止令」の扱いを巡り、津有の村々で騒動が広がり、高田藩は、農民に対して獄門、磔、遠島など重い処分を下しました。



今も昔も地面は揺れる！【宝暦の大地震】

1751年、マグニチュード7クラスの地震発生。戸野目では、地震の影響から火災が発生。20軒ほどが焼失し、10数名の死者が出たという記録があります。

なんと！ここは戦場だった！【川浦戦争】

1868年、飯田川を挟んで高田藩は津有方面、旧幕臣は三和方面に陣取りました。旧幕臣は砲弾を浴びせ、「北越戊辰戦争」の契機となる事件に発展しました。

時代を切り開いた偉人たち

偉人たちの詳しい功績はこちらから▶



中村 三代太郎
(1864～1946)
上雲寺小学校初代校長、
38年間勤務



池端 彌市郎
(1870～1944)
産業組合創設と
津有繩の奨励



篠宮 耕治
(1893～1979)
自動もみすり機の発明



柳沢 謙
(1907～1982)
医学博士
国立予防衛生研究所所長
世界保健機関(WHO)総会日本代表
結核予防の功績



小学校の歴史と先人の努力



戸野目小学校

四学びの道は 日本海
よしや航路の 遠くとも
渡らばなごか 越えさらん
人の精神は 春日山
史に読み得し 先人の
功もなごか 立てさらん
(中略)

一頭城平の真ただ中
青垣廻る山脈を
紫とおく霞ませ
土肥え水の 利を得れば
野は萬頃の 目もはるに
なびく 黄金の 稲の波



上雲寺小学校

現在、両校ともに創立150周年の節目にあり、長い歴史を刻み続けています。戸野目小学校は、1873年（明治6）に戸野目の蓮休寺で授業が始まりました。保阪貞吉氏は、新校舎建設や教師の確保に私財を投じるなど、多大な尽力をされました。上雲寺小学校は、1874年（明治7）に下富川で開校しました。初代校長の中村三代太郎先生は、38年間勤務され学校の基礎を固められました。

長い歴史は、先人の努力の成果と受け止めるべきでしょう。

